

越後佐渡おもむく歴史ばなし

新潟県尋常師範学校生徒は果報の息子なり—明治の修学旅行—

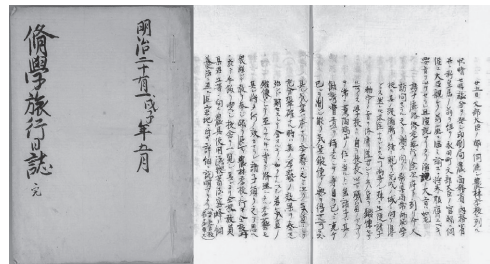
修学旅行といえば、見学・研修を目的とする旅行とはいえ、生徒にとっては学校生活において最も思い出に残るイベントのひとつです。

明治21年（1888）、新潟県尋常師範学校（注1）が会津・日光・東京と18日間、徒歩と鉄道・汽船を利用した行程で修学旅行を実施しました。生徒は、小学校の教員になることを目指し入学した者たちです。彼らは、どのような旅行を経験したのか、生徒が書いた『修学旅行日誌』をもとに跡を追ってみましょう。5月17日、見送りの先生方から「習練してきた気性と学力を実地にいき、新潟県人としての真価を発揮してきなさい。そして、研究したことをしっかりと習得してきなさい」との訓示を受けて出発します。

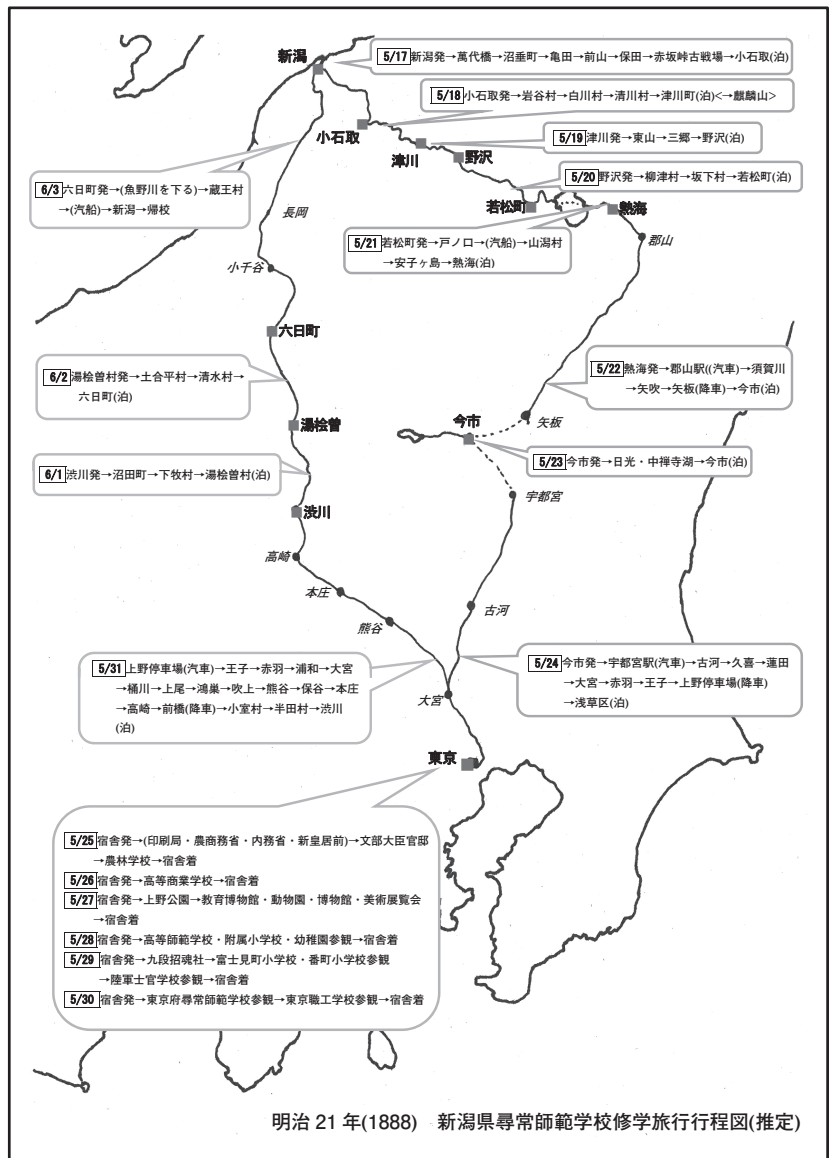
津川を通り、20日には会津に到着します。土地の人との触れ合いから「高尚の風姿」（注2）があると感じ、その原因は旧会津藩の遺風であろうと書き留めています。また、幕末会津藩の悲劇として語り継がれる白虎隊のことなどにふれ、「戦死者の墓碑を見たり是に於て転々当時を想ひやり」などと記しています。磐梯熱海（福島県）では、温泉を楽しんだようです。

日光を通過して25日に東京に到着した一行は、森有礼文部大臣のもとを訪問しました。大臣は、将来教師となる若者たちに「教師としての気質を鍛錬しなさい。学問はその次でよい。気質がしっかりしていなければ学問は何の役にも立たない」といった期待とともに励ましともいえる趣旨の言葉を贈ります。

その後、31日まで東京に滞在し、高等商業学校（注3）や東京府尋常師範学校（注4）など様々な教育機関を見学し、新潟への帰路につきました。見聞を広めて様々な刺激を受けた生徒たちは、群馬県を経由して6月3日、たくましく成長して無事に帰校しました。旅行中、新潟県民として恥ずかしくない行動をしてき



【修学旅行日誌】（請求記号E1207-5-1）



た、と振り返ります。また、他県の教育事情を観察した限り、どの県とも差異はなかったそうです。

そして最後に、以前に第一地方部（注5）尋常師範学校長が「新潟県尋常師範学校生徒は果報の息子なり」と言っていたことを思い出し、自分たちが恵まれた環境の中で勉学に励んでいると実感したことを述べて日誌を締めくくっています。

この旅行は、立派な教師になるための決意を新たにさせるかけがえのない旅行になったのではないのでしょうか。

日誌は、新潟県の近代教育発展の中で、志高く教師になることを目指した若者と、それを支え励ました多くの大人たちがいたことを教えてくれます。

（注1）現在の新潟大学教育学部の母体のひとつ。

（注2）高尚とは、学問・現行などの程度が高く、上品なこと。

（注3）現在の一橋大学。

（注4）現在の東京学芸大学教育学部の母体のひとつ。

（注5）関東1府6県（東京府、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県）と甲信越3県（山梨県、長野県、新潟県）及び静岡県をあわせた地域。

※新潟県立文書館HPに掲載中

平成29年度特別企画展から

「地図にみるふるさとのすがた ―描かれた越後・佐渡―」

文書館では、平成29年10月31日（火）から11月12日（日）の期間、特別企画展「地図にみるふるさとのすがた ―描かれた越後・佐渡―」を開催し、3つのテーマを設定し、当館が所蔵する資料の中から新潟県に関係の深い地図をご覧いただきました。展示資料から代表的な資料をご紹介します。

1 さまざまな地図

江戸・明治期に作られたさまざまな地図の中から、形態や内容の異なる地図を取り上げました。

○大崎村絵図（請求記号：F26-283）

大崎村は、現在の柏崎市、刈羽郡の旧西山町にあった海岸の村です。この絵図は、明治6年（1873）に描かれたもので、田、道、山川、浜が色分されています。西側に日本海と海岸、砂地、集落が、集落の東側には田、山川が描かれています。海岸には波除け場、集落には高札場も描かれています。



○新潟県越後国北魚沼郡実測図（請求記号：E9903-282）

「実測図」とは、測量の結果をもとにして作成された地図のことをいいます。この資料は明治28年（1895）に発行された北魚沼郡の地図で、山に囲まれている様子がケバ線の色で表されています。ケバ線はくさび形の線で描かれ、長さや濃さで標高や傾斜を表現していて、地形が視覚的に立体感をもって捉えることができます。



2 主題図

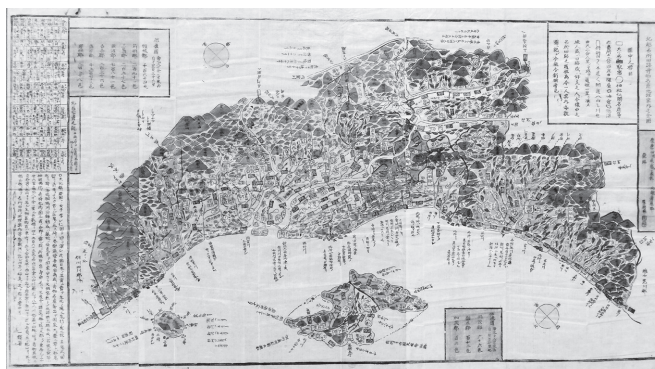
明確な基準はありませんが、地図の分類として一般図と主題図があります。

ある特定のテーマについて表現した地図を主題図と呼びます。その形態や内容は多種多様で、特別企画展では道中図、河川図、郵便線路図を取り上げました。

○北越名所旧跡奇物名産地理案内之全図（請求記号：E9312-1-9）

道中図は旅のための地図で、ほかの地図と比べるとコンパクトに折り畳め、徒歩で移動した江戸時代の旅行でも持ち運びやすい形になっています。この資料は、越後国に焦点を当て、道中の町や名所も詳細に描かれています。

さらに、地図の左側にはこの道中記を出版する意義や7種類に分類された越後七不思議が書かれています。紹介されている越後七不思議は地図中に場所が描かれ、実際にその目で不思議なことを確かめに行けるようになっています。



3 新潟県と新潟港

地図から新潟県、新潟港の移り変わりを見ていただきました。

○新潟県下越後国全図

(請求記号：F53-A-6361-2)

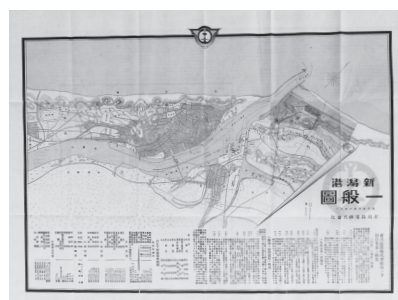
明治8年(1875)に作成された新潟県全体を描いた地図です。明治時代初期の行政区である大区小区制度による色分けがほどこされています。まだ東蒲原郡(現阿賀町)は福島県に属していたためにここには描かれていません。



○山之下築港計画図(新潟港一般図)

(請求記号：F74-901)

大正15年(1926)の新潟港の地図です。山之下開発事業地が赤字で表記されています。沼垂町には中央埠頭、北埠頭が完成し、信濃川右岸の開発が進んでいる様子が描かれています。



特別企画展で展示した主な資料

さまざまな地図	主題図	新潟県と新潟港
越後輿地全図(文政7年)	北越名所旧跡奇物名産地理案内之全図(近世)	新潟県下越後国全図(明治8年)
安養寺村絵図(近世)	大日本早見道中記(近世)	新潟沿革図(明治13年)
大崎村絵図(明治6年)	阿賀野川台帳平面図(近代)	新潟港地図(新潟港明細図)(明治17年)
新潟県越後国北魚沼郡実測図(明治28年)	改正郵便線路図(大正9年)	山之下築港計画図(新潟港一般図)(大正15年)

文 書 館 小 辞 典

《保存編》

Q 古文書のデジタル撮影をしました。データを保存すれば、原文書は捨ててもよいでしょうか？

A 貴重な古文書等は、時とともに劣化・破損は免れません。また、積極的な利用も古文書等の劣化を進める要因の一つになります。資料にはできるだけ触れないようにする点において、デジタル化は有効です。また、デジタル画像は必要な部分を切り取ったり拡大できることで利用しやすくなります。しかし、今後ハードウェア環境等の技術革新により、現在の技術で保存したデータが再生できなくなることも考えられます。

資料の活用のためにデジタル化はたいへん有効ですが、一方で原資料も決して廃棄せず、適切な環境で大切に保存してください。

新潟県立文書館

検索

平成30年度文書館主催講座

◆今年度の主催講座をご案内します。

○古文書講座

時間はすべて13:30～15:30 受講無料（但し資料代100円が必要）

講 座 名	日 程	時間	定員	申込開始日	会 場
はじめての古文書解読講座（春季）	5/9（水）・5/16（水）・5/23（水）	120分	20名	4/9（月）	制作演習室
はじめての古文書解読講座（冬季）	11/28（水）・12/5（水）・12/12（水）	120分	20名	10/26（金）	制作演習室
古文書初級解読講座（夏季）A	6/27（水）・7/4（水）	120分	各60名	各コースとも 5/16（水）	大研修室 ※A・Bともに 同内容
古文書初級解読講座（夏季）B	6/29（金）・7/6（金）				
古文書初級解読講座（冬季）A	1/16（水）・1/23（水）	120分	各60名	各コースとも 12/14（金）	大研修室 ※A・Bともに 同内容
古文書初級解読講座（冬季）B	1/18（金）・1/25（金）				
古文書解読講座（夏季）	8/1（水）・8/8（水）	120分	各180名	6/22（金）	ホール
古文書解読講座（冬季）	2/6（水）・2/13（水）			1/7（月）	ホール

○「新潟県の歴史」講座

時間はすべて13:30～15:30 受講無料

講 座 回	日 程	時間	定員	申込開始日	会 場
第 1 回	6/30（土）	120分	180名	5/31（木）	ホール
第 2 回	10/27（土）	120分	180名	9/27（木）	ホール
第 3 回	3/2（土）	120分	180名	2/1（金）	ホール

○特別企画展解説講座

時間はすべて13:30～14:30 受講無料

講 座 コ ー ス	日 程	時間	定員	申込開始日	会 場
A コ ー ス	10/31（水）	60分	60名	各コースとも 10/2（火）	大研修室 ※A・Bともに 同内容
B コ ー ス	11/7（水）	60分	60名		

アーキビスト

文書館職員随想

ことのほか厳しい冬となり当館の閲覧者数も激減した毎日でしたが、春は着実に近づいてこの「文書館だより」が発行される頃には桜の開花もそろそろという頃でしょうか。文書館のあるこの建物の周囲でも冬枯れの樹々の間から、鳥屋野潟の湖面がキラキラと輝いて見え、自然豊かなこの地にこのような教育施設があることを喜びと感ずるところです。

平成29年度はこれまで当館の閲覧室の利用がのべ約2,400人、講座等の参加者が約1,700人でした。（共に1月末現在）当館ホームページへのアクセスは今年度のべ3万5千件以上となっております。（同月末現在）

講座に来られる皆さんの姿を見ておりますと、熱心に生き生きと受講されておられます。新潟県の歴史を知り、祖先を思い自らの人生を振り返り、また古人がしたためた古文書が読みたいと大雪にもかかわらず講座に通って来られる姿に感銘を覚えます。

そもそも「保存なくして利用なし」をモットーに努めてきた文書館です。「新潟県史」編さん時代から受け継ぎ、その後も寄贈・寄託された資料があるからこそ歴史の発掘や古文書の活用ができるのです。これら古文書等を保存・整理し活用するのが文書館の仕事です。

しかしながら最近では当館も古文書だけでなく公文書に関する整理・保存のウェイトが高くなってきています。当館の書庫は公文書が3分の1を占めていますし、公文書管理条例制定の動きもあり今後一層資料の整理をすすめていかなければならないところではあります。

そこで、平成30年度は熱心な講座利用の皆さんにはご不便をおかけすることになりますが、「整理の年」とさせていただきます。古文書講座と歴史講座につきましては例年通りの開催とし、教養講座に関しては休止とさせていただきます。予定で考えています。

皆様におかれましては事情をお察しのうえ、何卒御理解・御協力のほどお願い申し上げます。

【副館長 佐藤】

編集・発行 **新潟県立文書館**

〒950-8602 新潟市中央区女池南3-1-2

TEL.025-284-6011 FAX.025-284-8737

URL. https://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/?page_id=569

E-mail. archives@mail.pref-lib.niigata.niigata.jp